



これからの時代に適応する教育センター

～ 標のない「生きる力」 ～

沖縄県立総合教育センター
 所長 宮城 淳

Society5.0 に向けた人材育成が求められている今日において、どのように社会が変わり、学びが変わるのでしょうか。2016年に登場した定義によると、「世界に先駆けた『超スマート社会』の実現」とされています。このことから、Society4.0があったということになり、それは、平成に入り、産業構造は大きく変化し、工場は生産効率をあげるために72時間の連続稼働を実現し、暮らしを豊かにしてきました。そして、高度情報通信社会の急速な技術革新は、グローバル化やIoT等の構造変化をもたらしてきました。そのような中、教育の現場においても、ICTを活用した授業スタイルが構築され、現在においては十年以前と比べると遥かに進歩しています。平成30年度から幼稚園、今年度から小学校で、新学習指導要領が実施され、これからの予測困難な時代を自らの力で切り拓く力が求められています。本県においても、2030年の社会とその先の未来を、子供たち自身が創り上げていくことができるように「学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」が新たにスタートしました。

本総合教育センターの役割は、本県の教育課題の解決に取り組み、特に、「確かな学力」の育成において各学校の頑張りに大きく寄与することです。本県の長年の課題として、学力向上があり、本県の教育振興基本計画により改善しつつあり、近年、全国学力・学習状況調査結果において、小中学校で一定の成果が、目に見える形で現れてきています。これからの時代に対応できる「生きる力」の育成がより一層重要となります。国や県の動向等を踏まえて、具体的解決策に関する開発的・実践的な調査研究のさらなる充実に取り組み、時代の変化に適応する教育センターとして取り組むことが肝要となります。そのため、関係機関との連携をしっかりとし、本県の教育施策を推進する立場から、各種研修会、各種研究会、各学校現場など多くの人と関わり見識を広め、教育実践の専門機関としての力量をつけ、様々な知見を得るように努め、現場に寄り添う教育センターを目指すことも要求されます。

一方、「学びの拠点」と「知の拠点」としての本総合教育センターの役割を發揮することが、学校を支援することにつながると考えます。本来のセンターの役割を達成できなければ、機能不全に陥ることから、事業は、人・物・金と言われるように本センターの人材及び設備等を活用して最大の支援を行えるように努めることも大切です。

「守・破・離」という言葉に出会いました。まさに、教育も不易と流行というように、「守・破・離」が大切だと思います。先行きの不透明な時代ではありますが、「不易」と「流行」は、いつの時代にも当てはまることだと思います。

結びに、先行きの見えない社会、今ある職業のほとんどがなくなっていくというような言葉を耳にすることがあると思いますが、なくなる職業の中では、新しく生まれる職業もあるということです。そういう新しい視点で、社会を生き抜く力が、真の「生きる力」であり、標のない人生にふさわしい力となることであると思います。これからの時代に適応する教育センターを目指して役割を果たしてゆきたい。

* * * * * も く じ * * * * *	
●巻頭言「これからの時代に適応する教育センター ～標のない「生きる力」～」	所長 宮城 淳 - 1
●調査研究事業について ～統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～ 他	-教科研修班- - 2
●沖縄県立総合教育センターの危機管理対応について 他	-教育経営研修班- - 3
●自主講座 小学校・中学校の先生方の実践力・指導力向上をサポート！ 他	-理科研研修班- - 4
●初体験！WEBを活用した研修、頑張っています。 他	-特別支援教育班- - 5
●植物工場を活用した生徒実習 他	-産業教育班- - 6
●GIGA スクール構想の推進～1人1台時代に向けた新しい教育方法の模索～	-IT教育班- - 7
●前期・離島長期研修研究報告会 ●研修を振り返って	-教科研修班、理科研研修班、特別支援教育班- - 8

調査研究事業について

～統一テーマ「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」～

本センターでは、本県の学校教育の課題解決へ向けて調査研究を行い、毎年度2月第1土曜日に研究発表会を開催しております。取り組み内容としましては、各班から選出されたメンバーでチームを編成し研究に取り組む「プロジェクト研究」、個人や共同で教育課題を設定し、研究を行う「個人・共同研究」があります。

今年度の「プロジェクト研究」では、本県が示した「沖縄県キャリア教育の基本方針」に基づいてキャリア教育の視点から授業改善に取り組んでおり、義務教育課、県立学校教育課とも連携しながら研究を進めているところです。また、「個人・共同研究」における教科研研修班の研究内容は、以下のとおりとなっています。令和3年2月6日(土)に開催します研究発表会への多くの御参加をお待ちしています。

種 別	テ ー マ
プロジェクト研究	一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育のあり方 －カリキュラム・マネジメントの視点を通して－
共同研究	キャリア教育の視点を踏まえた教育実践 －「数学」「保健体育」「道徳」「特別活動」の授業研究を通して－
個人研究	社会参画意識の涵養を図る新設必修科目へのアプローチ －ESD・主権者教育の視点に立った「沖縄の強み」を生かす授業デザインを通して－

教育講演会

調査研究事業の一環として、本県の今日的な教育課題解決へ向けて、年4回の教育講演会を実施しています。

今年度は、教育相談、キャリア教育の分野において第一人者としてご活躍中の先生方をお招きし、ご講演いただく予定となっております。児童・生徒理解や授業改善の方向性について、多くの示唆がいただける貴重な機会となるでしょう。

今後、実施を予定している教育講演会は、以下の通りとなっております。申し込み方法は、各学校に届くチラシ、または、本総合教育センターHPをご参照ください。多くの御参加をお待ちしています。

期 日	講 師	主 な 内 容
(予定) 12/11(金)	東京成徳大学 教 授 石 隈 利 紀	(予定)児童・生徒に応じた支援の在り方
(予定) 令和3年 2/6(土)	国立政策研究所 総括研究官 長 田 徹	(予定)キャリア教育

※新型コロナウイルス感染症に係る県内での状況等を踏まえ、開催方法につきましては検討しておりますが、延期もしくは中止になる場合もあります。実施については、本総合教育センターHPでご確認ください。

沖縄県立総合教育センターの危機管理対応について ～COVID-19 感染拡大防止対策と機能維持を目指して～

令和元年度末から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により、世界中が未曾有の事態となりました。本総合教育センターにおいては、感染防止を徹底するための教職研修統括部会の開催、イントラネット(MyWeb)を活用した COVID-19 専用コンテンツの開設による迅速な情報共有、共通理解の徹底を図るとともに、研修事業等の中止や延期、3密を避けた実施方法について検討し事業展開をしています。

所内で行われる事業については、教職員等を対象とした研修事業(経年研修・職務研修などの基本研修、長期研修・夏期短期研修・ICT 教育研修などの特別研修)や、児童・生徒を対象とした実習事業があります。これらの所内研修については、「新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県主催イベント等実施ガイドライン」に基づいて「COVID-19 感染症等予防マニュアル」を作成するとともに、安心・安全に受講者が研修に専念できるよう感染予防対策チェックリストによる確認を徹底し実施しています。

具体的には、会場の消毒はもちろんのこと、来所された受講者に対してマスクの着用をお願いするとともに、入室手順としては、①体温や風邪症状などを記入した「健康状態申告書」の提出、②感染拡大防止に係る施設利用上の留意事項の配布、③手指消毒や手洗い、④研修会場への入室、というように感染予防対策を徹底しています。また、受付時や座席などでの人と人との間隔を1m以上に保つため会場の定員を半分以下にするなど、三つの密(密閉空間、密集場所、密接場面)を避ける取り組みを徹底しています。

所外研修については出前研修や依頼研修等がありますが、所内研修と同様に感染予防対策の徹底及び感染予防対策チェックリストによる確認を徹底し実施しています。

また、研修内容の精選により、WEB 研修での実施が望ましいと判断した研修においては、オンデマンドやライブ配信等による代替研修を実施し、それに必要な講話録画や編集、クラウドへの録画データの保存などは、IT 教育班の全面的バックアップのもと行っています。

コロナ禍においてこのような体制で研修を行っていますが、今後とも「学校現場に寄り添う教育センター、学び続ける教員を支援する教育センター」として教職員の資質・能力の向上のため、そして安全・安心な受講ができる総合教育センターを目指し、研修機関の機能維持を図って参ります。

令和2年4月新設「幼児教育班」と教育センターの関わり ～県内の幼児教育・保育の質向上と円滑な幼小接続を目指して～

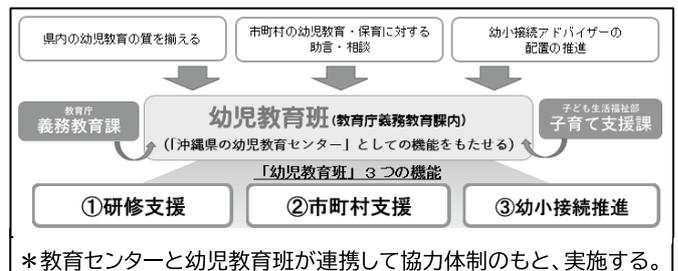
県教育庁義務教育課内に今年度、教育庁と知事部局(子ども生活福祉部)の連携を強化し、幼児期の教育・保育を担う幼稚園教諭、保育教諭、保育士等への研修を充実させることで県内の教育・保育水準の向上を図ると共に、幼児教育の実施主体である市町村(教育委員会・保育主管部局)と連携体制を図りつつ、円滑な幼小接続を推進することを目的に「幼児教育班」が新設されました。

本総合教育センターは、以下の3つの機能を「幼児教育班」と連携して取り組んでいます。

- ① 研修支援・・・【研修の効率化・質向上】
現行の研修内容を一元的に把握して実施する。
- ② 市町村支援・・・【県幼児教育アドバイザー巡回支援訪問】
市町村や園のニーズに応じた相談・助言。
- ③ 幼小接続の推進・・・【円滑な幼小接続の実現】
保幼小連携に係る協議会等の推進。

主に本センターにおいては、「①研修支援」を担っており、公私立を問わず全ての幼稚園・認定こ

ども園を対象(一部の研修については、保育所も含む)に、初任者・2年目教諭・中堅教諭等の研修および保育技術専門講座や幼児教育に係る出前研修等を実施しています。様々な園種で幼児教育が行われている中、小学校就学に向けて保育の質を向上させていくために、新設された「幼児教育班」と連携しながら効率的で効果的な研修及び円滑な幼小接続の推進に取り組んでいます。



*教育センターと幼児教育班が連携して協働体制のもと、実施する。
沖縄県教育庁義務教育課幼児教育班の設置構想

小学校の先生方の実践力・指導力向上をサポート！ ～「小学校理科自主講座」～

理科研修班では、小学校の理科専科を担当することになった先生方を対象に実践的指導力向上を目的とした自主講座を開講しています。物理・化学・生物・地学の4分野の主事が在籍しているのは、教育センターとして全国的にも数力所しかなく、理科の見方・考え方、実験・実習、観察指導の方法など各分野における専門的見地からの授業づくり支援を行っています。昨年度までは、勤務時間終了後の18時からの開講でしたが、働き方改革を考慮し、今年度からは15時からの開始となりました。勤務時間内ではありましたが多くの申し込みがあり、本事業のニーズの高さがうかがえました。

第1回の講座は、残念ながら新型コロナ感染拡大防止のため中止となりましたが、第2回の講座からコロナ対策を万全に整え、実施しました。

物理教室では「力のはたらき」の単元で、コロナ対策における実験の進め方や、風やゴム、電気のはたらきなど色々な実験ができる台車を製作しました。化学教室では「体積と温度」の単元で気体、液体、固体で、温度と体積の関係についての実験を行いました。火器の取り扱いにおける注意や、目盛りを読むためのテクニック、発問の仕方などたくさんの発見がありました。特に、ガスコンロを使用する実験では、細心の注意を払いながら、実験を進めていきました。

第3回の講座は「月や星の動き」として親子星空教室と併せて実施しました。講座では天体望遠鏡の使い方について望遠鏡の種類、事前に行うセッティング方法など、実際の望遠鏡を使用して行いました。また、天文ソフトのMitakaについても学習しました。講座の後、親子星空教室で月と太陽と地球の位置関係と月の見え方についての授業の進め方などの研修を行いました。その後、新しくなった天体ドームの見学と大型望遠鏡による、月の観測など充実した講座となりました。



観察・実験・ものづくりを通して科学の楽しさを伝える体験学習教室 ～「親子星空★教室」～

理科研修班では、各市町村教育委員会と連携し、小学生の親子を対象に、理科の実験や観察、もの作りなどの体験学習を通して、科学への興味・関心を高める機会とすることを目的に「親子星空教室」、「夏休みおもしろ科学教室」、「移動おもしろ科学教室」の「体験学習教室」を開催しています。残念ながら今年度は、新型コロナの影響で「夏休みおもしろ科学教室」「移動おもしろ科学教室」については中止としました。次年度にご期待ください。

「親子星空教室」については、天体ドームが新しくなり大型望遠鏡による観測ができるようになりました。これを機に例年2回の星空教室を3回に増やし、より充実した内容を計画しています。

星空教室の第1回と第2回は新型コロナ感染防止対策のため、募集人数を減らしての実施となりました。内容は、宇宙の話や工作、そして星座観察、月の観測会を行いました。初回は天候に恵まれず星空観察は厳しい状況でしたが、どうにか雲の切れ間からのぞく月を観測することができました。第2回は天気にも恵まれ、星座観察、大型天体望遠鏡での月の観測ができ、各回とも参加者はみな満足した様子でした。次回は11月に実施する予定です。詳しくは、本

教育センターのHPをご確認ください。



WEBを活用した研修開発

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、これまで経験したことのない生活の変化に、子供だけでなく私たち大人も戸惑っている状況です。しかし、このような状況下で、研修を提供する機関として、今私たちにできることは何かということで、特別支援教育班では、WEBを活用した研修の開発に努めているところです。

まず、講義については、プレゼンテーションソフトに音声を入れた動画を制作することからスタート。普段の対面式で行っている講義と違い、「ここがね」とレーザーポイントで指して説明することや、受講者の表情や反応を見ながら、理解度を確認して進めることができないため、見やすい・わかりやすいアニメーションの工夫、わかりやすい説明を目指して、いつも以上に気を使って作成しています。

また、私たち自身も初挑戦のグループチャットソフトウェアを活用し、4～5名でのグループ協議を取り入れた研修にも取り組みました。グループチャットソフトウェアへの入り方の説明資料を送付したり、当日までにグループチャットソフトウェアでのテスト会議の開催等を経て、無事に協議に取り組むことができました。そして、夏期短期研修でも、特別支援教育班では、コロナに負けず、9つの講座をオンデマンドで提供いたしました。



まだまだ手探りの状態ですが、これからの研修のあり方を考えるいいチャンスだと思い、改善を重ねながらよりよい研修作りに邁進いたします！

ホームページの充実を目指して！

急速に変化する高度情報化の中で、私たちの周りには生活や仕事に「便利」「有効」「効果的」な情報が溢れており、その中から、必要な情報を取捨選択し仕事の充実や家庭生活の潤いを生み出すことにつながっています。

このような社会情勢の中、改めて私たち特別支援教育班は、県内の特別支援教育センターとして、①情報普及や現代的なニーズに合った学校支援や地域支援のための研修や教育相談、情報普及等の業務の効果的な情報発信を行っているだろうか、②長期学校休業という、これまで想定することもなかった事態に対応するためにどのような方法があるのか等の2つの課題、③特別支援教育班や県内特別支援学校等で蓄積されてきた専門的な情報を利活用することで、私たちや学校現場における業務時間の短縮につながり、働き方改革の取組につながらないだろうか等、改めて班員全員で検討を重ねました。

議論の結果、生まれてきたアイデアは、本年度、既存の特別支援教育班ホームページをさらに充実させるためのスタートの年にするということです。コロナ感染症は、多くの困難を生み出していますが、チームで新しいことにチャレンジするチャンスを特別支援教育班にもたらしてくれました。

志高くをモットーに、溢れる情報の中で、「誰でも」「どんな時にも」「いつでも」「今必要な」特別支援教育の情報を得ることができるようするために、県教育委員会特別支援教育室からの情報や、特別支援学校の日々の教育実践に役立つ実践的な情報（教材等）、特別支援教育班における講義資料、日々の実践に有用な他県の特別支援教育センターとのリンク等、多岐にわたる内容を掲載していきます。「何をすればいいのか」ではなく、「どのように考え取り組めばいいのか」等に繋がる情報を提供できることを目指したいと考えます。試行錯誤の成果は、きっと、学校現場や地域からの声としてかえってくることでしょう。

特別支援教育班員一同の奮闘の成果をご覧ください。

植物工場を活用した生徒実習

平成 29 年 3 月、最先端の農業を学ぶ目的で産業教育班に植物工場が導入されました。公立学校向けとしては県内初の植物工場です。植物工場は、施設園芸ハウスのうち、「栽培環境や栽培管理に関する科学的データを収集・蓄積し、それをもとにして高度な制御を行って、より安定した生産を目的とする生産施設です。工場内に入ると、光、温度、湿度、二酸化炭素、肥料などを測定したモニターがあり、一目で植物の成長の様子を知ることができます。また、本センターの植物工場は「太陽光利用型」と「完全人工光型」の両方が学べる施設となっております。

県内農業系高等学校の生徒実習では、野菜の生育特性と栽培環境の調整技術、学校農場との比較栽培や LED による成長の違い、GAP（生産工程管理）の視点に立った安全安心な栽培技術などを学ぶ機会として活用されています。最近では、農業高校以外でも新しい産業を学ぶ機会として工業高校や商業高校の以下のような生徒実習が行われています。

☆工業高校・電気系学科…通信や制御のシステムを学ぶ

☆工業高校・機械系学科

…実習で製作したウルトラファインバブル水の比較栽培実験

☆工業高校・調理系学科

…植物工場野菜を栽培し、調理メニューを考案

☆商業高校…栽培体験や商品化について学ぶ

県内でも通信系企業の ICT によるイチゴ栽培や大型商業施設内に植物工場を導入することで安心安全な野菜を提供する事例も増えています。産業教育班では、植物工場での学びが本県の産業発展につながるよう様々な生徒実習や施設見学を計画しております。総合教育センターへ来られる際は、是非一度足をお運びください。



水の違いによる比較栽培実験



植物工場野菜を活用した料理

What is HACCP?

～ 安全・安心な食の提供に向けた専門高校教員対象支援講座を実施 ～

「どうなる島豆腐 衛生管理に国際基準 店頭販売は3時間以内に」の新聞の見出しに沖縄独自の食文化の「あちこーこー島豆腐」の存続を危惧した方も多いのではないでしょうか。食品衛生法が改正され、2020年6月からHACCPに沿った衛生管理が制度化されました。この制度化に伴い、島豆腐の衛生管理手引書が策定されることになり、島豆腐の温度が55℃未満の場合、3時間以内に消費するか冷蔵で保存することが求められ、温かいまま販売することが難しくなりました。

HACCPとは、食品衛生管理の国際基準で、原材料の受入から最終製品までの工程ごとに、微生物による汚染や異物の混入などの危害を予測した上で、危害の防止につながる特に重要な工程を連続的・継続的に監視、記録することで、製品の安全性を向上させるための衛生管理手法です。

県内の農業高校や水産高校では、実習でパンやクッキーなどの菓子や酸乳飲料、マグロの缶詰などを製造・販売しており、これらの製品は、即売会を通して、地域の方々に広く親しまれています。HACCPに沿った衛生管理は、学校にも例外なく実施が求められるため、学校ではHACCPに沿った衛生管理を行うための衛生管理計画の作成が急務になっています。そこで、本センター産業教育班では、それに対応できる知識・技術の習得を目指し産業教育支援講座として「HACCPの制度化に向けた基礎講座」を計画しています。支援講座では、HACCPへの具体的な対応方法についてワークを取り入れながら研修を行います。

本センター産業教育班では、先端技術装置を活用した教職員の研修事業や産業教育の動向や学校現場のニーズに対応した講座を開設しており、今後も、先生方の教育活動の支援に取り組んでいきます。



H30年度産業教育支援講座の様子
(賞味期限設定に関する技術講座)

G I G A スクール構想の推進 ～ 1 人 1 台 時代に向けた新しい教育方法の模索～

21 世紀の現代において、感染症が原因で学校休校や経済危機が起こる、ということ予測できた方はいるでしょうか。そして私たちは今回「子どもたちの学びを止めない」十分な取り組みが行えたでしょうか。世界にはコロナ禍下でも ICT を活用し、学びを止めていない国々もあります。しかし我が国のこの休校期間中、「学びを止めてはいけない、しかし、なすすべがない」と、多くの方がやるせない気持ちになったと思います。同時に「日本の学校教育」は、時代から取り残されている事も痛感したのではないのでしょうか。「予測困難なこれからの時代」…改訂学習指導要領のキーワードの一つですが、「これから」ではなく「既に」予測困難な時代に突入しているかもしれません。

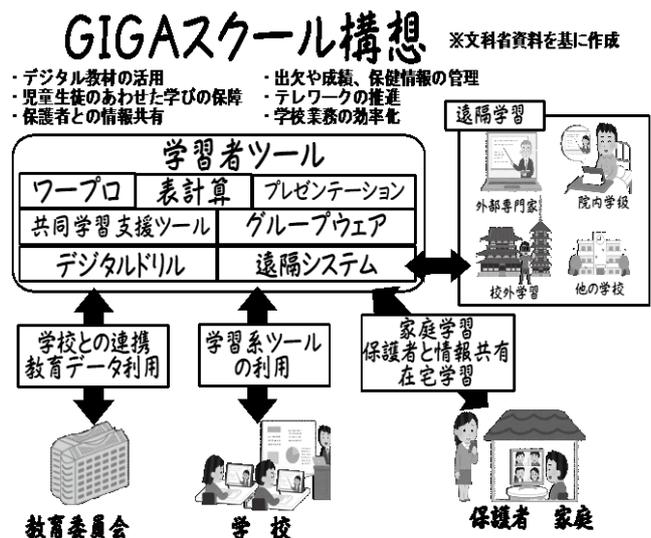
コロナ禍に先立つ令和元年 12 月、文部科学省は「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて」「児童生徒向けの 1 人 1 台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する」という「G I G A スクール構想」(G I G A = Global and Innovation Gateway for All)を打ち出しました。ICT を活用し、学習状況の蓄積、最適な教材提供、細やかな学習指導等により個別最適化 (アダプティブラーニング) を行うことで「オーダーメイドの教育」を最終目標としていると言えるでしょう。

G I G A スクール構想では「ハード」「ソフト」「指導体制」の整備が計画されています。「ハード面」に関して、今後県内全市町村で 1 人 1 台端末の整備が予定されています。また、それら端末を効果的に活用するためには、全員が集中的にアクセスしても耐えられる「高速大容量の通信ネットワーク」が必要です。IT 教育班では高等学校において 1 人 1 台端末の教育環境の整備に向けて、今年度より生徒個人所有の情報端末を授業で活用する、いわゆる BYOD (Bring Your Own Device) の検証を始めています。その検証の中で、「ネットワークの回線速度の遅さ」が課題として浮き彫りになりました。現在、教育支援課及び通信業者、ネットワーク保守業者と連携を行い、整備改善に努めています。

コロナ禍下の取り組みとして、IT 教育班では県立学校全児童生徒へ Office365(M365)アカウントの付与を行いました。付随するサービス活用に向けて「遠隔学習支援サイト」を開設し、動画マニュアル等を発信して学校現場の支援を行っています。また、小学校の算数に関して、現場の先生方の協力を得て、子供たちがつまづきやすい部分についての説明動画を発信しています。この動画を見ながら家庭学習や、分からない部分の補完に活用していただければと考えています。加えて、来所できない教職員のために、教育センターでは各班より研修動画の Web 配信も積極的に行っています。動画については、随時更新、充実させる予定です。今回のコロナ禍への対応は、来るべき 1 人 1 台端末の教育活動にも活かせるものだと考えます。

G I G A スクール構想支援の取り組みとして、本年度中に市町村立小中学校教職員へも永続的なアカウント付与を行う予定です。授業支援サービスの活用、教材・動画作成、及びそれらを配信・収集するマニュアル作成など、学校支援のための資料等を専用サイトで順次公開していきます。また、今後の研修をさらに充実させるため、WindowsOS・iOS・ChromeOS の標準仕様端末導入を計画しています。さらに令和 2 年 10 月 23 日に浦添市立澤岬小学校にて、1 人 1 台端末を活用した公開授業を予定しています。直接参観だけではなく、Web 配信での参観も行う予定です(要申込)。

予測困難な時代を生きる子供たちに情報格差・教育格差そして収入格差を生まないよう、「ICT 活用能力」育成は必須です。今後、「これまでの教育」+「新しい教育」のベストミックスにより、想像もしなかった学びができるようになるでしょう。そのためには教職員も学び続ける必要があります。学校や教職員、そして児童生徒の学びや実践を支えていけるよう、教育センターでも鋭意努力をして参ります。



令和2年度 前期・離島長期研修研究報告会

令和2年度前期・離島長期研修研究報告会が9月9日(水)～10日(木)の日程で、本センターで開催されました。前期長期研修員16名、離島研修員5名の計21名が各自のテーマに基づき、教育課題解決に向けた意欲的で熱意の伝わる報告を行いました。会場には関係学校長、教諭の方々の参加やライブ配信による多くの視聴がありました。また、関係各位の激励を受け、研修員一同、6ヶ月の研究成果を十分に報告することができました。



主体的な学びには、問いを持たせることと・・・
教科研修班 糸満市立米須小学校 教諭 仲宗根 徹



私の今回の研究内容は、校内研修の運営に関するものでした。目標に向かって、どうみんなを巻き込んでいくかということです。教員の様々な考えを1つの目標に向かって進めていくには、研究をデザインし導く存在が必要だと改めて感じました。その存在が、しっかりと学び、実践することで、他の教師も「やってみよう」と触発され、行動変容にむかっていくからです。学校に戻ったら、学び続ける教師として私自身が良きモデルとなり、子供達や先生方が充実した日々を送れるように実践していきたいと思います。

研修を振り返って
理科研修班 名護市立緑風学園久志中学校 教諭 上運天 栄



半年間の教育センターでの生活は、コロナ禍の中、はじめは研究がどうなっていくのかとても不安な状態でしたが、班長や主事の皆様からの丁寧な指導・助言を頂けたことや学校の協力も得られ、充実した研究を進めることができました。さらに、研修員として共に学んだ他校種の先生方との交流の中から校種間での考え方や取り組みの違い等新たな刺激を受け貴重な経験となりました。この研修を通じた出会いに心より感謝し、研修で得たものを生徒に還元できるよう教育活動に取り組んでいきたいと思っています。

実り多き時間に感謝！
特別支援教育班 県立美咲特別支援学校 教諭 仲村真子



4月、これまで体験したことのない社会情勢の中、不安を抱えての研修のスタートになりましたが、学びの舎には、常に笑顔、笑い声が響き、沢山の学びで溢れていました。この自己研鑽の時間は、教諭として私の大きな財産であり、現場に戻ってからのバイタリティーになると確信しています。特支班班長・主任・主事の先生方には、研究の深化のため、多くの適切な指導助言をしてくださいましたことに、心から感謝いたします。今後は教育センターで得た学びを子供たち、現場の先生方に還元していくことが使命であり、これからが私のスタートだと思っています。

学校現場に寄り添う教育センター
学び続ける教員を支援する教育センター